

特集 “社会常識” を分析化学的にみれば

特集「“社会常識” を分析化学的にみれば」企画にあたって

本特集は、今年姫路工業大学で開催された第63回分析化学討論会において討論主題の一つとして行われたテーマを取り上げたものです。企画から依頼・脱稿に至る諸工程まで、近畿支部ならびに分析化学討論会実行委員会の全面的な協力のもと、まとめられました。シンポジウムのオーガナイザーでもあり、多大なご尽力をいただいた紀本岳志氏の下記の文面より、本特集の趣旨を汲みとっていただければ幸いです。

最近の新聞やニュースには、あらゆる分野での測定された数値があふれ、それが鵜呑みにされ、あたかも絶対的に正しいかのような印象で一人歩きしている。いわゆる測定数値だけの社会常識化である。

本来、分析化学の立場から言えば、測定数値の背後には、試料の前処理、コンタミネーション、測定原理、妨害物質など、様々な問題があり、さらに時空間的な変動要因なども重畳されていると考えるのが常識である。しかしながら、それらの数値が、いったんマスコミに乗ると、そのポピュリズムの格好の材料にされ、巧妙な言葉の下に科学的とは言えない意図の基に加工されてしまいかねない。分析化学のブラックボックス化現象とも言うべき問題が、現代社会に顕在化し始めたように思われる。

このような社会的な風潮の中で、その測定に携わる分析化学の立場で、各々の事例を^{なが}眺め直してみることで、問題解決への何かの糸口が得られないかというのが、本主題のテーマである。食品の安全性、環境ホルモン汚染、地球温暖化の真偽、ねつ造で揺れる考古学、犯罪と分析化学、など各方面で実際にそういった事例に向き合っておられる先生方に、その内実をご執筆いただいた。各々の内容は、通常あまり見受けられないテーマゆえに、数値の背後に隠されているドラマに対して多くの方に関心を持っていただければ幸いです。

現代社会の最大の関心事は経済や政治であり、自然科学への理解や関心は、まだまだではある。まして最近では、科学自身への“不信”が社会に広がりつつある。科学の客観性が“はかる”ことを通してのみ得られることは、それに携わる者の“常識”であるが、科学教育が“暗記”ものとなった我が国では今後ますます社会の理解が失われていくのかもしれない。“はかる”ことから考える科学の本来の姿を社会に広く浸透させるためにも、今後ともに学会として、このようなテーマに取り組んでいただけることを期待したい。

〔紀本電子工業株式会社 紀本岳志〕

特集 “社会常識” を分析化学的にみれば

安全神話の崩壊と分析化学の役割.....	四ツ柳隆夫	海洋コア研究がもたらすもの.....	蒲生啓司
環境中微量内分泌かく乱物質の安全性評価とその測定.....	今北 毅	脱酸素剤を活用した「生もの」試料の手軽な保存や移送.....	大谷 肇・平生進吾・石田康行・柘植 新
水質基準としての窒素・リンとは何か：畑地流出による負荷に着眼して.....	伊藤純一	考古学における分析化学的検証の必要性.....	三辻利一
尿タンパク質検査と目視分析への展望.....	金子恵美子	公鑄銭・模鑄銭の化学分析.....	西本右子・佐々木 稔
ヒトの発汗活動と神経伝達.....	津田孝雄	名古屋城天守閣に使われていた瓦鉄釘の材質は.....	平井昭司
地球温暖化をはかる.....	廣瀬勝己	大阪城濠堆積物に記録されていた江戸時代の水銀汚染の歴史.....	山崎秀夫
地殻変動をはかる.....	角皆 潤	犯罪と分析化学.....	中井 泉